

裸麦新品種「サンシュウ」

誌名	農業技術
ISSN	03888479
著者	伊藤, 昌光 土井, 芳憲 石川, 直幸
巻/号	45巻4号
掲載ページ	p. 177-177
発行年月	1990年4月

研 究 通 報

裸麦新品種「サンシュウ」

伊藤昌光 土井芳憲 石川直幸

登録番号：裸麦農林30号（旧系統名：四国裸79号，昭和59年命名），交配組合せ：ナンブウハダカ×（ナンブウハダカ×Hiproly）F₁（昭和47年交配）

特 性 の 概 要

叢性は直立して葉色が濃く，株は閉じる。稈長はナンブウハダカより長い中程で穂長やや短く，粒着密度は中で粒は濃褐色，やや小粒の長粒で原麦品質は劣る。播性程度はIで茎立期は早い。出穂期，成熟期ともナンブウハダカより2日早い早生で耐倒伏性は中，穂発芽性は難。ナンブウハダカより少穂で収量はやや低い。粒質は硝子質で硬く，精麦白度が低い。耐病性は縞萎縮病に強，赤かび病に中，うどんこ病にやや弱。

子実の蛋白質含量は高蛋白親のHiprolyよりやや低く裸麦中間母本農1号と同程度かやや高く，ナンブウハダカより高い。また粗蛋白質中のリジンの比率はナンブウハダカより高く，Hiprolyと同程度である。

適応地域と栽培上の注意

四国及び中国地方の温暖な麦作地帯に適し，当面は香川県東部で良質の飼料用裸麦として普及を図る。茎立ちのやや早い早生種のため，極端な早播きは避け，うどんこ病に弱いので適期防除を行う。耐倒伏性は十分とはいえないので極端な多肥栽培は避ける。

命名の由来：香川県の旧国名である讃岐の別称，讃州にちなむ。

育 成 後 記

裸麦の高蛋白・高リジン化の成分育種は，新しい需要の拡大を見込んで昭和46年から始まった。高リジン遺伝子Iysをもつが，農業形質が著しく劣るエチオピア原産の二条裸麦品種Hiprolyを1回親とする戻し交配法をとり，初期世代ではIys遺伝子と連鎖する底刺短毛遺伝子Sをもつ個体を選抜，さらに硝子質粒個体の選抜によって育種の効率化を図った。またDBC法，全窒素分析法等の化学分析によって選抜・確認を行った。特にDBC法は多数・少量の試料を短時間に処理できるので多数個体（系統）を扱う初期世代の選抜に有効であった。

サンシュウは裸麦の高栄養化を目的とした成分育種の成果であり，畜産試験場及び香川県畜産試験場では早くからこの品種の高蛋白・高リジン性を鶏や豚の高栄養飼料として高く評価し，実用化のために新品種登録を期待していた。特に香川県では汎用水田を有効利用し，価格変動の大きい輸入トウモロコシに替る自給飼料として普及させることにしている。また平成2年度から香川県を中心に徳島，愛媛3県の畜産試験場で本品種を使って豚の肉質改良の共同研究が予定されており，将来的には3地域に広く普及することが期待される。

今後このような高栄養裸麦を飼料用としてだけでなく，付加価値の高い食品素材として幅広く利用する新しい用途の開発及び評価基準の確立が新品種の普及を進める上からも必要である。

育成従事者：伊藤昌光，土井芳憲，石川直幸，加藤一郎，神尾正義，片山正，瀬古秀文，吉川亮，堤忠宏
（四国農業試験場作物開発部畑作物育種研究室長）

サンシュウの特性

項 目	品種名	サンシュウの特性		
		サンシュウ	ナンブウハダカ	裸麦中間母本農1号
播 性 程 度		I	V	V
出 穂 期 (月・日)		4. 4	4. 6	4. 6
成 熟 期 (月・日)		5.17	5.19	5.19
程 長 (cm)		92	82	86
穂 長 (cm)		5.0	5.4	5.6
穂 数 (本/m ²)		714	794	769
耐 倒 伏 性		中	中	やや強
縞 萎 縮 病		強	強	強
収 量 (kg/a)		53.2	58.4	49.6
対 標 準 比 (%)		92	100	86
1 重 (g)		798	795	811
千 粒 重 (g)		22.0	23.3	22.8
原 麦 品 質		下上	中中	下上
粒 色		濃褐	黄褐	濃褐
原 麦 白 度		12.4	15.8	13.0
精 麦 白 度		27.2	41.2	30.7
蛋白質含量(%)		12.61	10.63	12.21
リジン含量(%)		0.61	0.37	—
リジン/蛋白質(%)		3.89	3.48	—

M. ITO, Y. DOI, N. ISHIKAWA: A New Naked Barley Cultivar "Sansyuu". 農業技術 45 (4), 1990.

注) 試験年度：57，61～63年度，育成地標準栽培